＜序　文＞

小郡市は、北部・中南部における宅地開発や北東部・中南部における工業団地の開発が相次いで行われ、現在福岡・久留米両市のベットタウンとして日々発展を続けています。これに伴い、交通網の整備も着々と進行しつつあります。

今回ここに報告いたします「大保西小路遺跡６」は、宅地造成に伴う道路建設に先立って小郡市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書です。遺跡は、三国丘陵からなだらかに伸びる沖積地であり、宝満川、口無川、高原川などによって形成された沖積台地上に築かれています。本遺跡が所在する大保区は、近年の開発に伴う発掘調査により中世を中心とした遺跡が多数発見されています。今回の調査では、小字境の溝が中世より機能していたことが推定されました。御勢大霊石神社周辺は、大宮司により平安時代に町づくりが行われた可能性が指摘されており、今回の調査成果がその解明への一助となれば幸いです。

最後になりましたが、地権者さん、調査にご理解とご協力をいただいた周辺住民の皆様、現地作業にあたった地元作業員の皆様など、発掘調査を進める際にお世話になった多くの方々に深く感謝を申し上げ、序文といたします。

平成 28 年 3 月 31 日
小郡市教育委員会
教育長　清武　輝

＜例　言＞

1、本書は、小郡市三沢地内における宅地造成に伴う道路造成事業に伴って、小郡市教育委員会が平成 26 年度に発掘調査を行った大保西小路遺跡６の埋蔵文化財発掘調査の記録である。
2、遺構の実測、遺構の写真撮影は西江幸子が実施した。
3、遺物の実測は西江、製図は久住愛子、白木千里、宮崎美穂子、洗浄・復元には、衛藤知嘉子、佐々木智子、藤岡恵子、深町幸子、山川清日、永富加奈子ら諸氏に多大なる協力を得た。また、遺物の写真撮影は（有）システム・レコに委託した。
4、遺構図中の方位は座標北を示し、図上の座標は国土座標第Ⅱ系（世界測地系）に則している。
5、本書で用いた標高は、東京湾平均海水面（T．P．）を基準としている。
6、本書で用いている略号は以下のとおりである。
　溝：SD　　土坑：SK　　ピット：P
7、遺物・実測図・写真は小郡市埋蔵文化財調査センターにて管理・保管している。
8、本書の執筆・編集は西江が担当した。

本文目次

第１章　調査の経過と組織……１
　１．調査の経緯
　２．調査の経過
　３．調査の体制
第２章　位置と環境……２
第３章　遺跡の概要……３
第４章　遺構と遺物……3
　１．溝
　２．土坑
　３．ピット
第５章　まとめ……23

挿図目次

第１図　大保西小路遺跡６調査地位置図
　（Ｓ＝1/2500）
第２図　大保西小路遺跡６周辺遺跡分布図
　（Ｓ＝1/25000）
第３図　大保西小路遺跡６　遺構配置図(S＝１/250)
第４図　１号･７号溝実測図(S=1/40)
第５図　２号溝実測図(S＝1/40)
第６図　１号･２号溝出土遺物実測図(S=1/4)
第７図　３号溝実測図
　(平面:S＝1/160、土層断面:S＝1/40)
第８図　３号溝土層断面実測図①(S=1/40)
第９図　３号溝土層断面実測図②(S=1/40)
第10図　３号溝土層断面実測図③(S=1/40)
第11図　３号溝出土遺物実測図①(S=1/4)
第12図　３号溝出土遺物実測図②(S=1/4)
第13図　３号溝出土遺物実測図③(S=1/4)
第14図　３号溝出土遺物実測図④
　(6･7:S=1/2、その他:S=1/4)
第15図　４号･５号溝実測図
　(平面:S=1/160、土層断面:S=1/40)
第16図　４号･５号･８号溝、２号･５号土坑
　出土遺物実測図(S=1/4)
第17図　２号･５号･７号･10号土坑実測図(S=1/40)
第18図　６号･８号･９号土坑実測図(S=1/40)
第19図　８号･９号土坑、ピット出土遺物実測図(S=1/4)
第20図　調査地周辺の小字と溝

表目次

大保西小路遺跡６出土遺物観察表

図版目次

図版１　①調査区全景（真上から）
　②１号溝ベルト土層断面（東側から）
　③１号溝完掘（西側から）
　④２号溝ベルト土層断面（東側から）
　⑤３号・８号溝完掘（西側から）
　⑥２号溝完掘（東側から）
　⑦４号溝完掘（南側から）
　⑧４号溝完掘（北側から）
　⑨７号溝完掘（南側から）
　⑩５号土坑完掘（北側から）
　⑪４号溝ベルト土層断面（北側から）
　⑫５号溝ベルト土層断面（北側から）
　⑬７号溝北壁土層断面（南側から）
　⑭５号土坑土器出土状況（南側から）
　⑮５号土坑西壁土層断面（東側から）
　⑯６号土坑完掘（北側から）
　⑰８号土坑完掘（西側から）
　⑱９号土坑整地層検出状況（東側から）
　⑲調査区遠景（南側から）
図版２　出土遺物

第１章　調査の経過と組織

１．調査の経緯

大保西小路遺跡６の発掘調査は、小郡市三沢字権道 12-1、12-2、12-3、字舞々 11-2、11-4 における宅地造成事業に先立ち、地権者より平成 26 年９月 25 日付で小郡市教育委員会に対して埋蔵文化財の有無に関する照会（審査番号 14071）が提出されたことに始まる。市教委では、これを受けて平成 26 年 10 月２日に申請地の試掘調査を行った結果、地表下 60 ～ 75㎝の深さで遺構が確認されたため、開発に先立って埋蔵文化財に関する協議を行った。

協議の結果、敷地のうち宅地造成事業に伴う道路造成事業地についての 264㎡について発掘調査を実施することとなった。

２．調査の経過

発掘調査は平成 27 年１月８日から同年３月２日にかけて実施した。調査の主な経過は以下のとおりである。

１月８日　表土剥ぎ開始。（～13日）
１月14日　発掘作業員を投入し、遺構検出・掘削開始。
２月20日　全景写真撮影。
２月25日　遺構実測終了。埋戻し開始。（～27日）
３月２日　現場引き渡し、調査完了。

以後、図面・遺物整理作業及び報告書作成実施。

３．調査の体制

大保西小路遺跡６の調査の体制は、以下のとおりである。

〔平成 26 年度〕
小郡市教育委員会
教育長　清武　輝
教育部長　佐藤　秀行
文化財課長　片岡　宏二
係長　柏原　孝俊
技師　西江　幸子（調査担当）

〔平成 27 年度〕
小郡市教育委員会
教育長　清武　輝
教育部長　佐藤　秀行
文化財課長　片岡　宏二
係長　柏原　孝俊
技師　西江　幸子（整理担当）

〔発掘作業従事者〕
草場誠子、土井久江、西島勝徳、松永康弘
（敬称略）

第１図　大保西小路遺跡６調査地位置図（S＝1/2500）

第２章　位置と環境

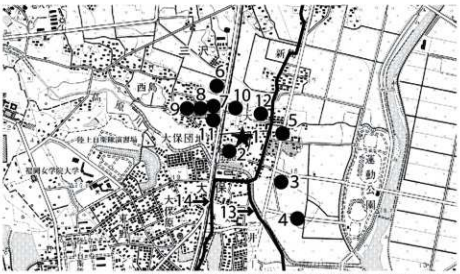
小郡市は、中央部を南北に宝満川が流れ、北西部に通称三国丘陵、北東部に花立山（標高130.8 m）から伸びる丘陵があり、南側は緩やかに下る平坦な台地へ移行し、筑後平野へと連なる。

大保西小路遺跡６（１）は、三国丘陵からなだらかに伸びる低台地の縁辺部に位置し、本遺跡周辺の西鉄沿線側は、宝満川周辺よりも標高が高い。

大保西小路遺跡は、これまでに５回調査が行われている。第１次調査では、14 ～ 16 世紀に相当する鞴羽口や鋳型、鉄滓等鍛冶関連の遺物・遺構が発見された（２：市報告 99 集）。第２次調査では、15 ～ 16 世紀に相当する大型の土坑が発見された（２:市報告 257 集）。また、第３次・第４次・第５次調査を第６次調査と同年度に行っており、今年度報告書刊行予定である。以上より、大保西小路遺跡包蔵地内では鍛冶関連の遺構・遺物が多数検出され、中世を中心とした遺跡の広がりが確認されている地域である。以下では、大保区周辺地域に分布する遺跡を中心に歴史的環境の概要を示す。

大保区内において最初に人々の活動が確認されたのは、縄文時代であり、大保横枕遺跡２（３：市報告 260 集）で、縄文土器を伴って石組炉や落とし穴状遺構が検出された。続く弥生時代になると、同じく大保横枕遺跡２で前期に比定される二重環濠を持つ集落が発見されその南に位置する大保横枕遺跡１（４：市報告 137 集）と伴に甕棺墓が広がっていた。古墳時代には、大保横枕遺跡２や大保龍頭遺跡３・４・５・６（５：市報告 135・140・183・187 集）を中心に竪穴式住居跡が検出されている。古代になると、集落域は西側の三沢寺小路遺跡（６・７・８・９：市報告 117・158・222・229・263 集）に移動する。中世になると、小郡市内でも特に遺跡が多数検出されている地域となる。11 世紀後半から大保龍頭遺跡・大保横枕遺跡２で集落が形成され、1359 年の大保原合戦の影響か、14 世紀代より、集落域をこれらの遺跡の西側の大保西小路遺跡、三沢寺小路遺跡、三沢権道遺跡（10・11：市報告 82・125 集）、大保毎々遺跡（12：市報告 223 集）を中心とした地域へと移動する。また、中世から江戸時代初期にかけて人々の往来道であった旧筑前街道（13）が、大保区内を御勢大霊石神社前の道で南北方向に通っていることからも、人々の活発な活動が想定される。近代以降に関する遺跡は、現時点ではあまり発見されてはいない。しかし、小郡町を起点に旧筑前街道へとつながる大保道（14）が大保区内に通っており、伊能忠敬の測量時にも御勢大霊石神社まで通ったことが測量日記や測量図より判明していることから、重要な往来道であったことが窺える。

小郡市内において中世に関する文献資料は少ないため、他の時代と比較して歴史的復元がなかなか行えていない。しかし、近年の特に大保区内における中世の遺跡の発見は、今後、この地における社会像を探求する上で大きな一助となるだろう。



1：大保西小路遺跡６
2：大保西小路遺跡１・２
3：大保横枕遺跡２
4：大保横枕遺跡１
5：大保龍頭遺跡３・４・５・６
6：三沢寺小路遺跡１
7：三沢寺小路遺跡２
8：三沢寺小路遺跡４
9：三沢寺小路遺跡３・５・６
10：三沢権道遺跡１
11：三沢権道遺跡２
12：大保毎々遺跡
13：旧筑前街道
14：大保道

第２図　大保西小路遺跡６周辺遺跡分布図（S＝1/25000）

第３章　遺跡の概要

大保西小路遺跡６は、周知の埋蔵文化財包蔵地の北端中央部よりに相当する。宅地造成のための道路設置工事部分のみの発掘調査であったため、南北約 44 m、東西約６m の非常に細長い範囲である。遺構検出面の標高は 18.0 m前後、現地表から 0.5 ～ 0.9 m下る高さで確認している。層位は、にぶい黄褐色土の下に褐灰色土が堆積する耕作土層が堆積し、その下より遺構検出面である黄褐色ローム層を検出した。

出土遺構は、中世の溝２条と土坑９基、近世以降の溝３条、その他数基のピットを検出した。検出した溝のうち、中世のＬ字状に曲がる溝１条の西際で検出した近世以降の溝１条と調査区北端で検出した東西方向に延びる溝１条は、昭和 27 年（1952）の地籍図との照合から、小字境の溝であることを確認した。全体的には、遺構密度の割に遺物はほとんど出土しなかった。

大保西小路遺跡６で検出した遺構・遺物は以下のとおりである。

●遺構
・溝　　９条　　・ピット
・土坑　　10 基

●遺物
・土師器　　・須恵質土器
・青磁　　・磁器

第４章　遺構と遺物

１．溝

１号溝（第４図、図版１）

調査区の北端よりに位置し、調査区外へと延びる。溝は、東西方向に伸びる。現状で全長約 3.8 m、幅 0.6 ～ 1.9 m、深さ最大 0.7 m を測り、断面形状は逆台形を呈する。埋土は、水平堆積の様相を示す。

埋土から少量の土師器片が出土しているが、図化するに至ったものは少ない。

出土遺物（第６図、図版２）

１～３は土師器の皿である。底部は糸切りが施されている。２・３は体部のカーブより、口径に対して底径が小さいと想定される。４～６は土師器の鍋の口縁部片である。粘土紐貼り付け等により口縁端部を肥厚させ、内面にはハケメ調整が施されている。７は土師器の鉢の口縁部片、８は須恵質土器のすり鉢の口縁部片である。７・８伴に口縁部に行くほど器壁が厚く、底部に向かうほど器壁が薄い。８は内面に単位不明のすり目があり、外面はハケメ調整が施され、東播系須恵器と想定される。９は青磁の碗の口縁部片である。外面胴部に蓮弁の文様をもつ。10 は平瓦の細片である。整形時の工具痕と思われる調整を確認している。

以上の形態的特徴より、８・９のみ 13 世紀中葉～ 14 世紀前半とやや古いものの、その他は 14 ～ 15 世紀代に比定できる。

２号溝（第５図、図版１）

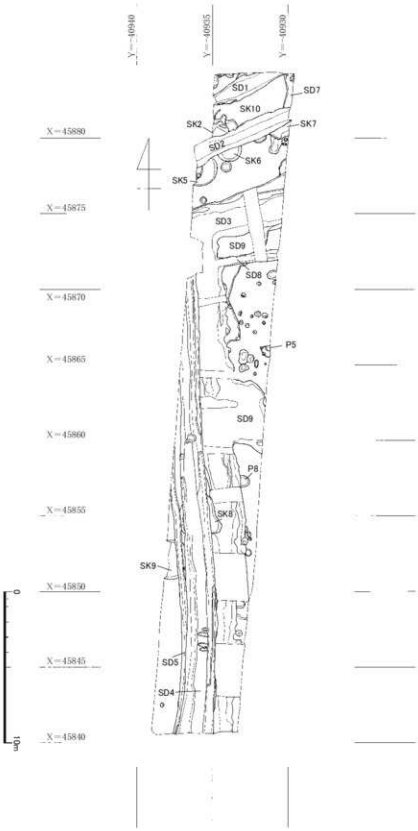
調査区の北部に位置し、２号･５号･６号･７号･10 号土坑を切り、調査区外へと伸びる。溝は、東西方向に伸びる。現状で全長約 6.5 m、幅約 0.9 ～ 1.3 m、深さ最大 0.85 m を測り、断面形状は逆台形を呈する。埋土は、水平堆積の様相を示す。昭和 27 年（1952）の地籍図との照合から、小字権道と小字舞々の小字境溝から東方向に延びた溝であると想定される。

埋土から多数の磁器片と少量の陶器片・土師器片が出土しているが、図化するに至ったものは少ない。

出土遺物（第６図、図版２）

11 は磁器の皿である。内面に染付と蛇の目が施されている。12 ～ 14 は磁器の碗であり、銅版転写による染付が施されているものもある。13 は内面に蛇の目が施されている。15 は磁器の瓶である。16 は陶器の灯明皿であり、底部は糸切りが施されている。

以上の形態的特徴から、19 世紀末以降と想定される。

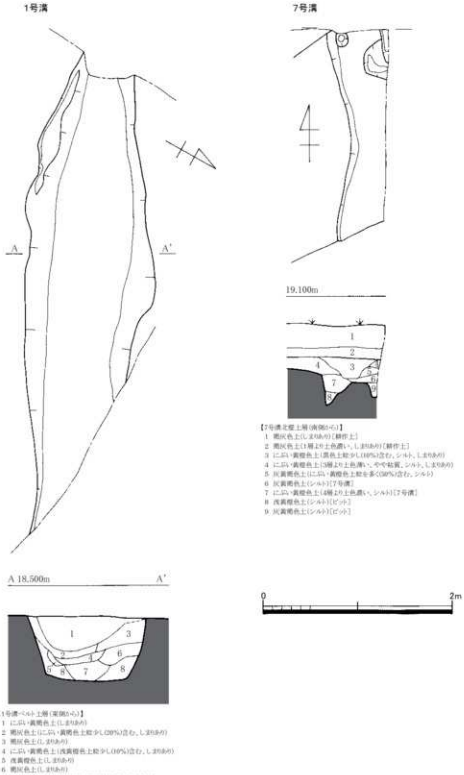


第３図　大保西小路遺跡６　遺構配置図（S＝１/250）

３号溝
〔第７～10図 図版１〕

調査区の北部から南端にかけて位置し、４号溝に切られ、８号溝、９号溝、８号土坑を切り、調査区外へ延びる。溝は、L字状に延びる。現状で東西方向に全長約６m、幅約2.4～3.2m、南北方向に全長約33.3m、幅約1.6m、深さ最大0.7mを測り、断面形状は逆台形を呈する。埋土は、水平堆積の様相を示す。地山面は、黄橙色砂・灰白色粘質土であり、所々で鉄分の沈着を確認した。

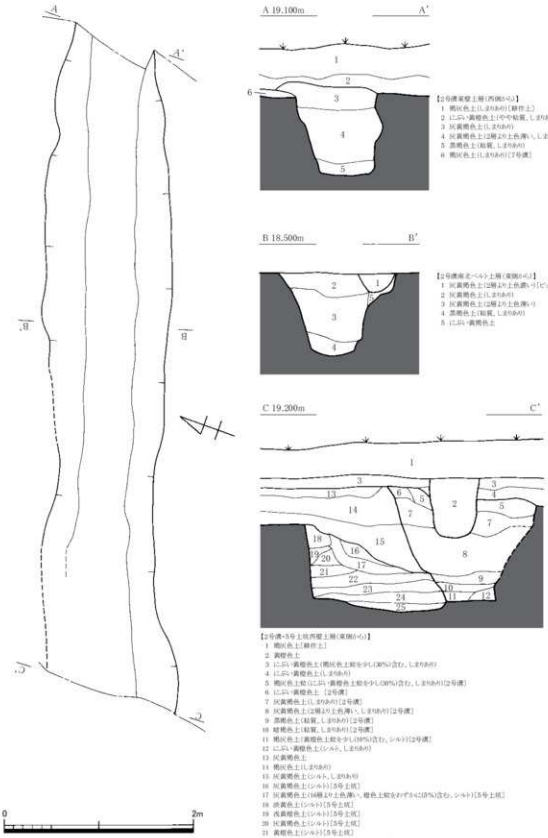
遺構検出当初は、現在３号溝と捉えている部分のうち、９号溝より南側に広がる部分は、一度土を掘り返した後に堆積したような土色・堆積状況を示していることから、この部分は攪乱と捉え、３号溝は、東西方向に延びた後にL字状に折れ、９号溝へと続くと捉えていた。しかし、この攪乱部分の範囲内にも土坑のように黒褐色土が広がる範囲があったため、土坑として掘ってみたところ、土坑の輪郭は出ず、溝の壁面の片側を検出するにいたった。このことにより、攪乱と捉えていた部分にトレンチを数か所入れ、溝の壁面を検出できるか確認したところ、溝の壁面が確認できた。また、図上より、この攪乱部分の幅が３号溝として検出した幅と類似し、伸



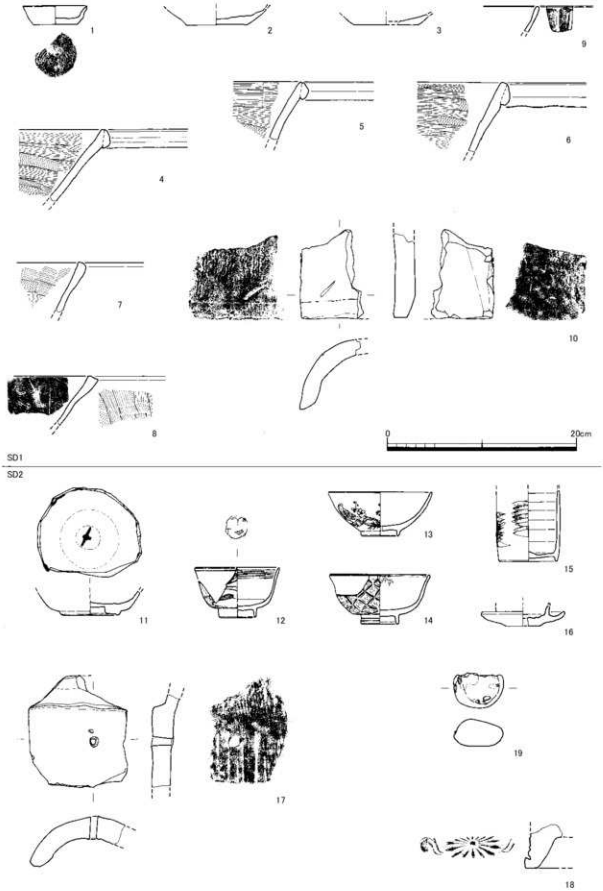
【7号溝覆土層(南側から)】
1 暗灰色土(しまりあり)[耕作土]
2 暗灰色土(1層よりも色濃い、しまりあり)[耕作土]
3 にぶい黄橙色土(黒色土粒少し(10%)含む、シルト、しまりあり)
4 にぶい黄橙色土(3層よりも色薄い、やや粘質、シルト、しまりあり)
5 灰黄褐色土(にぶい黄橙色土粒を多く(50%)含む、シルト)
6 灰黄褐色土(シルト)[7号溝]
7 にぶい黄橙色土(4層よりも色濃い、シルト)[7号溝]
8 浅黄橙色土(シルト)[ピット]
9 灰黄褐色土(シルト)[ピット]

【1号溝ベルト土層(東側から)】
1 にぶい黄橙色土(しまりあり)
2 暗灰色土(にぶい黄橙色土粒少し(20%)含む、しまりあり)
3 暗灰色土(しまりあり)
4 にぶい黄橙色土(浅黄橙色土粒少し(10%)含む、しまりあり)
5 浅黄橙色土(しまりあり)
6 暗灰色土(しまりあり)
7 暗灰色土(浅黄橙色土粒少し(10%)含む、しまりあり)
8 灰黄褐色土

第４図　１号・７号溝実測図（S=1/40）



第５図　２号溝実測図（S＝1/40）



第６図　１号・２号溝出土遺物実測図（S=1/4）

びる方向も３号溝から続いていることがわかった。よって、９号溝より南側に広がる攪乱と捉えていた部分は、３号溝の広がりであることがわかった。また、当初攪乱と捉えていた部分は、土層断面図（F-F′ベルト土層より南に位置するすべてのベルト）の考察より、遺構検出面より下側に 10 ～ 35cmの範囲において地山面と同様な淡黄色系の土が堆積している。その堆積層の中には、地山面と同様な灰白色粘質土がブロックで混ざっていることから、この堆積層は、人為的な埋戻しが行われた可能性が考えられる。３号溝は４号溝に沿って掘られていることも考慮すると、４号溝を掘削した時の土を使って埋めた可能性も考えられようか。

埋土から大量の土師器片が出土したが、ページの都合上残りの良いもののみ図化するに至った。

出土遺物（第 11 ～ 14 図、図版２）

第 11 図１～ 19 は土師器の皿である。底部が残存するものでは全て糸切りが施されていたが、14 のみヘラ切り後板ナデが施されている。19 は内外面にススが付着していることから、灯明皿として使用された可能性が考えられる。第 11 図 20 は土師器の蓋で、内面にコゲが付着している。第 11 図 21 は瓦器の甕の底部片である。第 11 図 22 ～ 25 は土師器のすり鉢である。内面にすり目が施されており、22・25 は４本１単位、23 は５本１単位、24 は不明である。第 11 図 26 ～ 29 は土師器の鉢である。26 のみ碗のようにカーブを描くが、他は外斜している。第 12 図１～４はすり鉢の口縁部であり、１・２では片口が整形されている。１は胴部２箇所で外側から内側に向かって穿孔がなされている。１～４全ての内面で４本１単位のすり目が施されている。特に、土色から２は土師器、それ以外は東播磨系の須恵質土器の可能性が高い。第 12 図５は須恵質土器の鉢で、東播磨系須恵質土器の可能性が高い。第 12 図６～ 10 は土師器の鍋の口縁部片であり、コゲが外面を中心に付着している。口縁端部は、粘土紐貼り付け等により肥厚させ、内面にはハケメ調整が施されている。第 13 図１～３は湯釜を模した土師器の鍋の胴部片であり、外面にはコゲが付着している。第 13 図４・５は瓦質土器の火鉢である。外面胴部の突帯で区切られた空間には、花文が押されている。第 13 図６は陶器の甕であり、口縁端部は玉縁状を呈する。第 13 図７・８は青磁の皿である。第 13 図９・10 は青磁の碗であり、内面見込みに草花文をもち、10 は外面に蓮弁文様ももつ。第 14 図１は平瓦の細片である。内外面に工具調整痕が見られる。第 14 図２～４は砥石である。現状で砥面を２は４面、３は２面、４は１面確認している。第 14 図５は石臼の細片である。四角い形態をした芯棒受け穴が中心軸よりずれた位置にあけられていることから上臼と想定される。内面には断面 U 字形の主溝が５本１単位で刻まれている。第 14 図６は黒曜石製の剥片、７は黒曜石製の石核である。

以上の形態的特徴より、第 11 図 14 や第 12 図１・２～５、第 13 図７～ 10 は 13 世紀中葉～ 14 世紀前半とやや古いもののその他は 14 ～ 15 世紀代に比定できる。

４号溝（第 15 図、図版１）

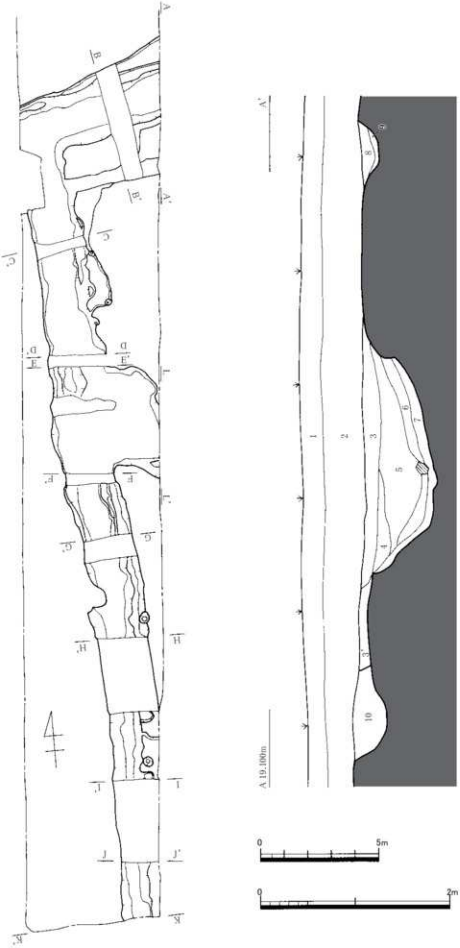
調査区の中央部に位置し、５号溝、３号溝、８号土坑、９号土坑を切り、調査区外へ伸びる。溝は、南北方向に伸びる。現状で全長約 30.1 m、幅北側で 1.1m、南側で 1.9m、深さ北側で 0.35 m、南側で 0.6m を測り、断面形状は逆台形を呈する。このことから、北側は本来の遺構検出面から削平を受けている可能性が高いと言える。埋土は、水平堆積の様相を示す。溝の内部は、東辺・西辺沿いに幅 0.56 ～ 0.73m の細い溝が走っている。このことから、何度か溝が掘り直されていた可能性が考えられる。昭和 27 年（1952）の地籍図との照合から、小字権道と小字舞々の小字境溝であると想定される。

埋土から少量の磁器片や土師器片が出土しているが、図化するに至ったものは少ない。

出土遺物（第 16 図）

１は磁器の皿の口縁部片であり、外面は口縁部から垂れるように釉薬が施されている。２～４は磁器の碗の底部片である。３・４は銅版転写による染付が施されている。

以上の形態的特徴から、19 世紀末以降に比定できる。



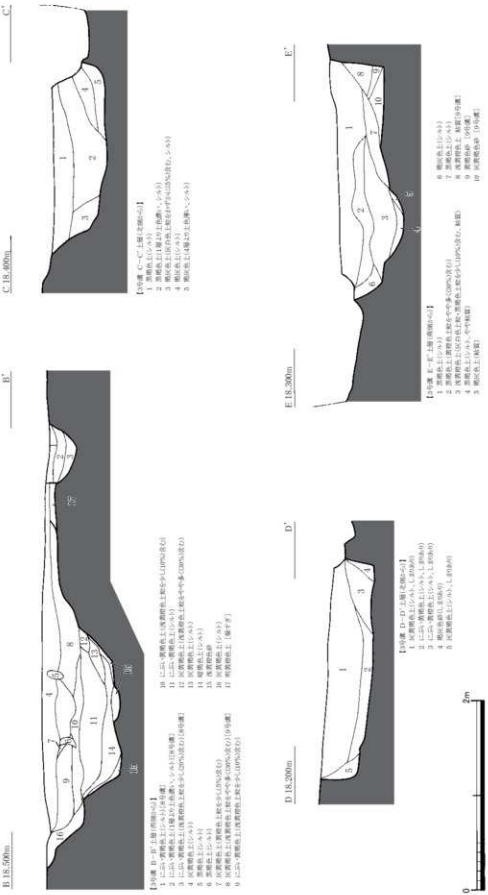
第７図　３号溝実測図（平面：S＝1/160、土層断面：S＝1/40）

5号溝

〔第15図
図版1〕

調査区の中央部に位置し、4号溝に切られ、8号土坑、9号土坑を切り、調査区外へ伸びる。溝は、南北方向に伸びる。現状で全長約19.2 m、幅 約0.45m、深さ北側で約0.12 m、南側で 約0.3m を測り、断面形状は逆台形を呈する。このことから、北側は本来の遺構検出面から削平を受けている可能性が高いと言える。埋土は、水平堆積の様相を示す。溝は、9号土坑を切るあたりより南側では、4号溝により溝の半分からそれ以上を切られていた。

埋土から土師器の皿や鍋の小片が出土したが、小片の為、図化するに至ったものは少ない。



第8図　3号溝土層断面実測図①（S=1/40）

出土遺物

（第16図）

5・6は土師器の皿の底部片であり、底部には糸切りが施されている。7は青磁の碗の口縁部片であり、外面には蓮弁文様をもつ。

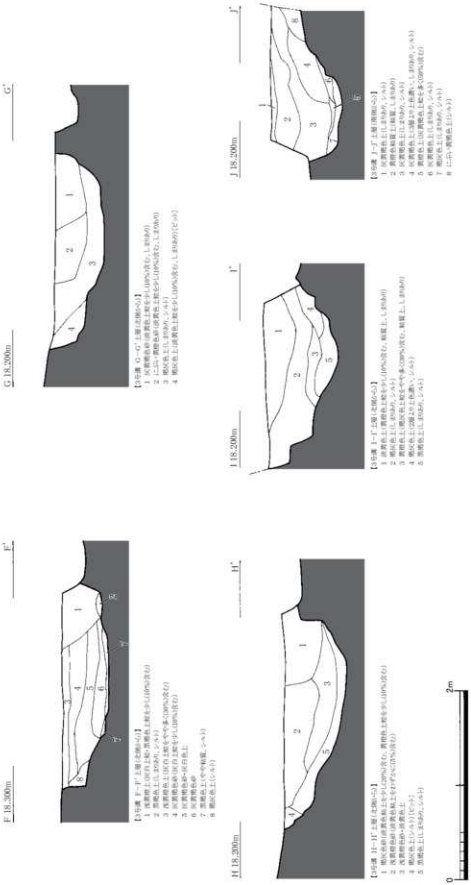
以上の形態的特徴より、13世紀中葉～14世紀前半に比定できる。

7号溝

〔第4図 図版1〕

調査区の北端部東辺に位置し、2号溝に切られ、調査区外へ伸びる。溝は、南北方向に伸びる。現状で全長約2.2 m、幅約0.35～0.6m、深さ最大0.13 m を測り、断面形状は逆台形を呈する。埋土は、水平堆積の様相を示す。

埋土から少量の遺物が出土しているが、小片のため図化するに至らなかった。



第9図　3号溝土層断面実測図②（S=1/40）

８号溝

（第３図）

調査区の中央部東辺に位置し、３号溝に切られ、調査区外へ伸びる。溝は、東西方向に伸びる。現状で全長約3.7 m、幅約0.52 ～ 0.7m、深さ最大0.3 mを測り、断面形状は逆台形を呈する。埋土は、水平堆積の様相を示す。

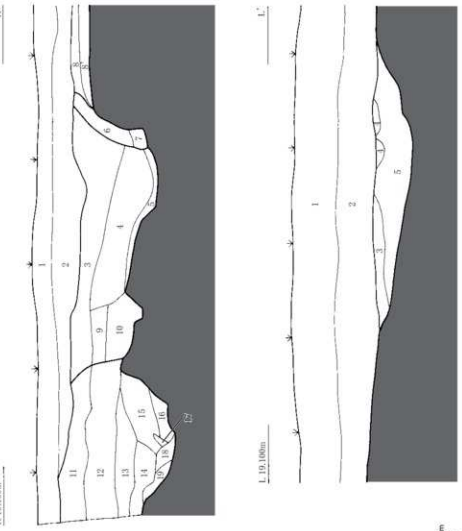
埋土から少量の遺物が出土しているが、小片のため図化するに至ったものは少ない。

出土遺物

（第16図）

８・９は土師器の皿であり、底部は糸切りが施されている。10は土師器の鍋である。口縁端部は粘土貼り付けにより肥厚し、内面にはススが付着しているとともに、ハケメ調整が施されている。

以上の形態的特徴から14 ～ 15世紀に比定できる。

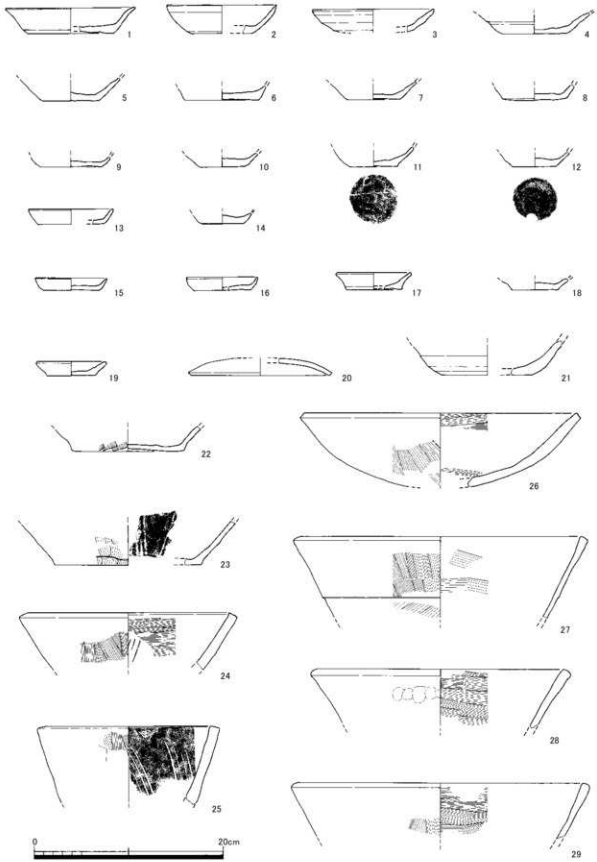


第10図　３号溝土層断面実測図③（S=1/40）

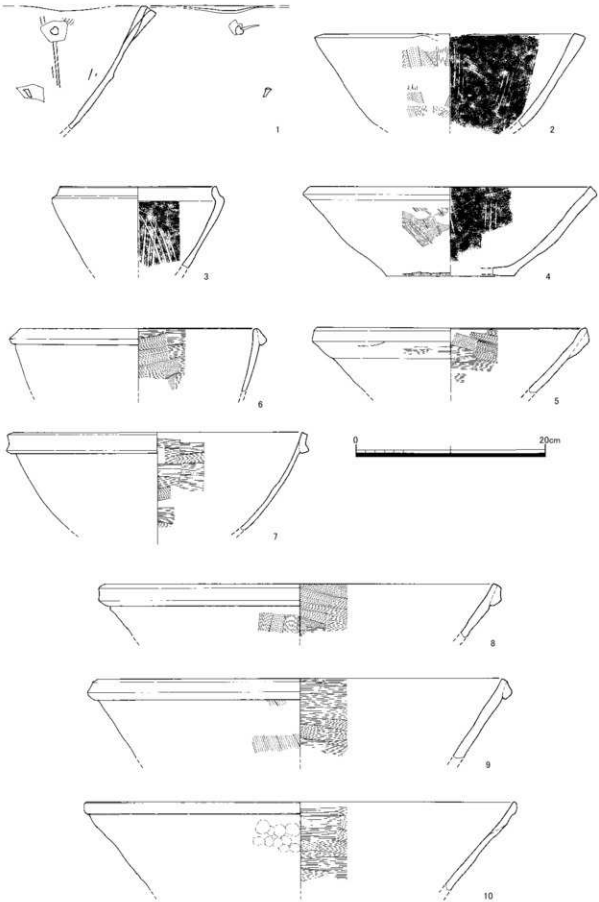
９号溝（第３・８図）

調査区の中央部東辺から中央にかけて位置し、３号溝に切られる。現状で全長約2.1m、幅約4.0m、深さ最大0.47mを測り、断面形状は逆台形を呈する。埋土は、水平堆積の様相を示す。地山面は、黄橙色砂・灰白色粘質土である。遺構検出当初は、３号溝がコの字状に折れた部分につながると捉えていた。しかし､E-E'ベルトの土層断面を検討した結果、９号溝が古く、南北方向に延びる３号溝に切られていることがわかった。

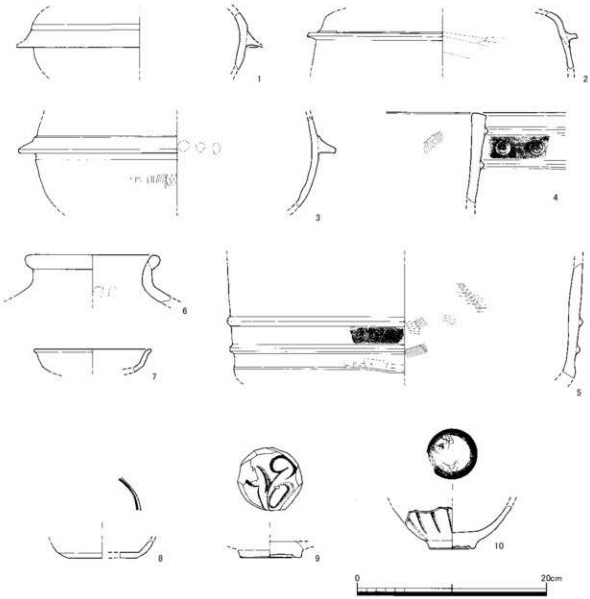
埋土から少量の糸切りが施された土師器の皿の小片が出土しているが、図化するに至ったものは少ない。



第 11 図　3 号溝出土遺物実測図①（S=1/4）



第 12 図　3 号溝出土遺物実測図②（S=1/4）



第 13 図　3 号溝出土遺物実測図③（S=1/4）

2．土坑

2 号土坑（第 17 図）

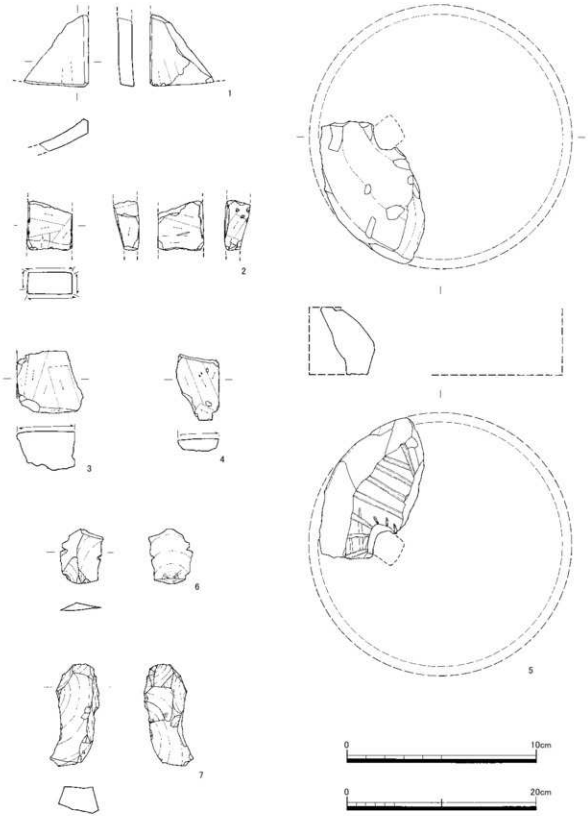
調査区の北部西辺において検出した土坑であり、10 号土坑を切る。平面形は、現状 114cm × 110cmの楕円形を呈し、深さは最大 64cmを測る。

遺物は釉薬のかかった陶器片が数点出土したが、小片のため図化するに至ったものは少ない。

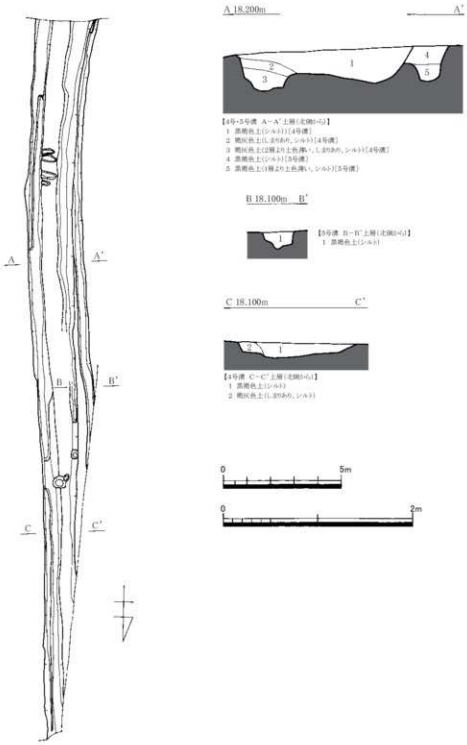
出土遺物（第 16 図、図版 2）

11 は弥生土器の甕の底部片である。底部は平底であり、外面にハケメ調整が施されていることから、弥生時代中期に比定できる。12 は丸瓦の細片である。頂部に瓦同士を重ねる際の固定に使用したと想定される穿孔を 1 箇所確認している。形態的特徴より、19 世紀末以降に比定できる。

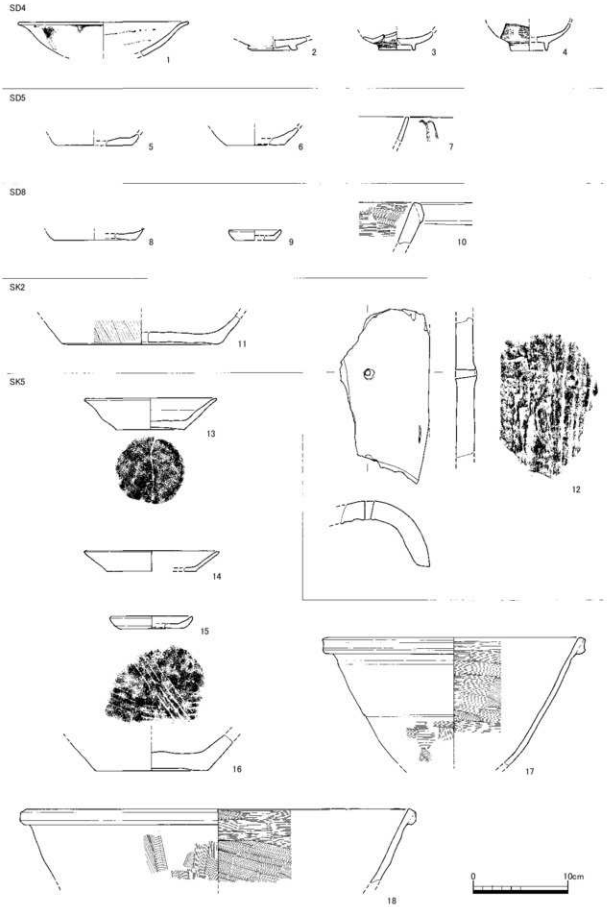
以上より、11 は混ざり込みであり、12 がこの遺構使用時期に相当すると考えられる。



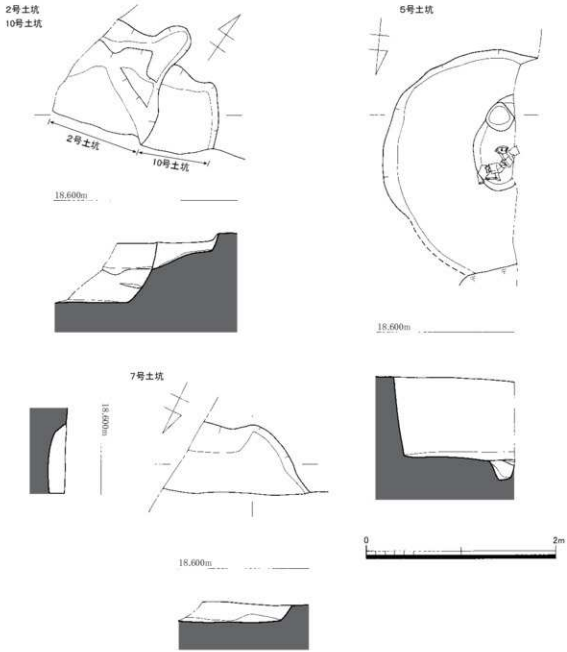
第 14 図　3号溝出土遺物実測図④（6・7：S=1/2、その他：S=1/4）



第 15 図　4 号・5 号溝実測図（平面：S=1/160、土層断面：S=1/40）



第16図　4号・5号・8号溝、2号・5号土坑出土遺物実測図（S=1/4）

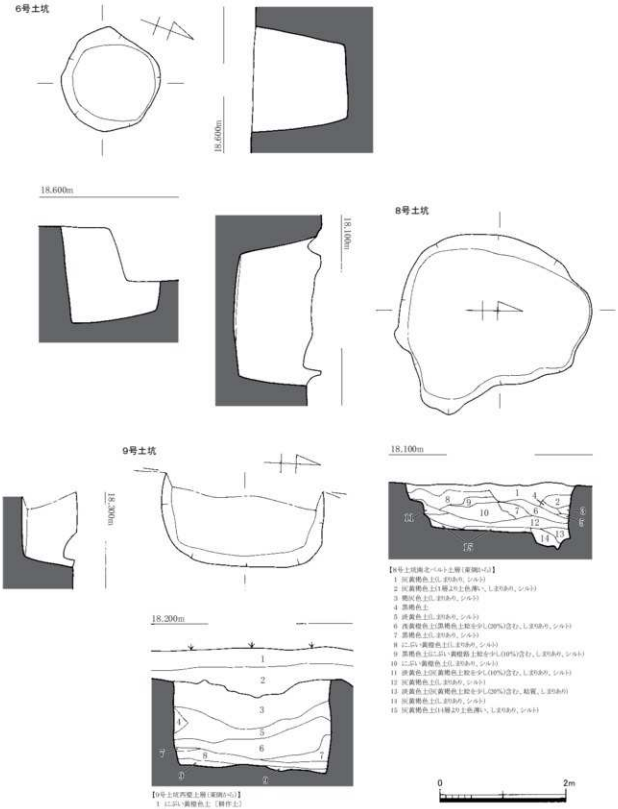


第 17 図　2号・5号・7号・10 号土坑実測図（S=1/40）

5号土坑（第5・17図、図版1）

調査区の北部西辺において検出した土坑であり、2号溝に切られる。平面形は、現状 250cm × 130cmの楕円形を呈する。遺構検出面より深さ 33cmのところで土師器がまとまって出土し、その後深さ 65cmのところでにぶい黄橙色土による整地層を確認した。第5図［2号溝・5号土坑西壁土層］の 22 層より下層では、にぶい黄橙色土と黒褐色土が互層になっていることから、井戸である可能性が高いと考えられた。この時点で、遺構の性格が判明したため、遺構検出面より深さ 90cmの整地層面で掘るのを止めた。

埋土から土師器の皿や鍋の破片を多数出土したが、小片の為図化するに至ったものは少ない。



第 18 図　6号・8号・9号土坑実測図（S=1/40）

出土遺物（第 16 図、図版２）

13 ～ 15 は土師器の皿である。底部は 13･15 のみ糸切り後板ナデ､14 は糸切りが施されている。13・14 は口径に対して底径が小さい。また、15 はつまみだしたような胴部に器高が高くないことから轆轤成形による製作が想定される。13 は外面にタール状の物質が付着しており、内面にススが付着していることから灯明皿として使用された可能性が想定される。16 は須恵質土器のすり鉢の底部片である。内面にはススが付着し、４本１単位のすり目が施されている。17・18 は土師器の鍋である。口縁端部は、粘土紐貼り付けにより肥厚させ、内外面伴にハケメ調整を施している。鍋の機能が想定できるかのように、17 は外面に、18 は内外面にコゲが付着している。

以上の形態的特徴より、17・18 のみ 14 ～ 15 世紀とやや新相を呈するが、そのほかは 13 世紀中頃に比定できる。

６号土坑（第 18 図、図版１）

調査区の北部西側よりにおいて検出した土坑であり、２号溝に切られる。平面形は、154㎝×162㎝の楕円形を呈する。遺構検出面より黒褐色土が約 90㎝堆積した後、黒褐色土と淡黄橙色砂の互層が、実測図面で記録した下面まで少なくとも続いていることから、井戸である可能性が高いと考えられた。遺構の性格が判明したので、遺構検出面より深さ約 150㎝のところで安全性の確保のため掘るのを止めた。

埋土から遺物は検出できなかった。

７号土坑（第 17 図）

調査区の北部東辺において検出した土坑であり、２号溝に切られている。平面形は、現状 120㎝× 66㎝の不整形を呈し、深さは最大 20㎝を測る。

埋土から遺物は検出できなかった。

８号土坑（第 18 図、図版１）

調査区の中央部において検出した土坑であり、３号・４号・５号溝に切られる。平面形は、300㎝× 280㎝の楕円形を呈する。遺構検出面より約 75㎝堆積した後、明黄橙色粘質土と褐灰色砂が互層に出土しており、所々に鉄分の沈着がみられたことから、井戸である可能性が高いと考えられた。遺構の性格が判明したのと、調査期限が迫ってきていたことから、遺構検出面より深さ 140㎝のところで掘るのを止めた。

埋土から土師器の皿や鍋の破片を数点検出したが、小片の為図化するに至ったものは少ない。

出土遺物（第 19 図）

１は土師器の皿の底部片である。底面は糸切りが施されている。胴部は軽くつまんだような形態をしていることから、轆轤成形により製作されたと想定される。２は瓦質土器の火鉢の口縁部片である。外面胴部の突帯に挟まれた空間には、花文が押されている。３は須恵質土器のすり鉢の口縁部片である。口縁部は片口部分も確認している。内面にはススが付着し、４本１単位のすり目が施されている。

以上の形態的特徴より、14 ～ 15 世紀代に比定できる。

９号土坑（第 18 図、図版１）

調査区の中央部西辺において検出した土坑であり、４号溝、５号溝に切られる。平面形は、現状 254㎝× 110㎝の楕円形を呈する。遺構検出面より深さ 100㎝、西壁土層断面図より遺構の掘り込みが 130㎝のところで淡黄色色砂による整地層（９層）を確認した。この整地層は、10㎝位堆積しており、この下からはにぶい黄橙色砂が 20㎝位堆積していた。そして、これより下層に鉄分を含む層が堆積していることから、井戸である可能性が高いと考えられた。遺構の性格が判明したのと、調査期限が迫ってきていたことから、遺構検出面より深さ約 100㎝の整地層 (９層) 検出面で、掘るのを止めた。

遺物は土師器の皿の小片が数点出土したが、小片のため図化するに至ったものは少ない。

出土遺物（第19図、図版2）

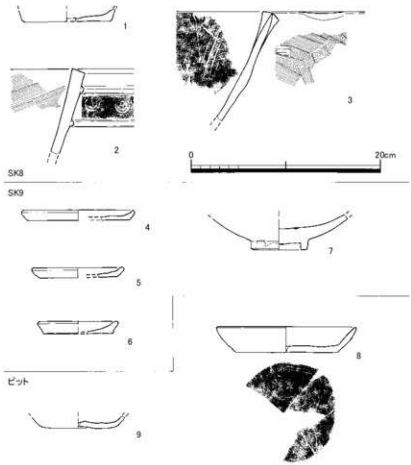
4～6は土師器の皿である。底部は、4のみ糸切りが施され、5・6は糸切り後板ナデが施されている。胴部はつまみ出したような形態で器高も低いことから、轆轤成形により製作されたと想定できる。7は青磁の碗の底部片である。内面には蛇の目が施されている。

以上の形態的特徴より、13世紀後半～14世紀前半に比定できる。

10号土坑（第17図）

調査区の北部西側よりにおいて検出した土坑であり、2号溝、2号土坑に切られる。平面形は、現状80cm×70cmの隅丸方形を呈し、深さは最大16cmを測る。

埋土から遺物は検出できなかった。



第19図　8号・9号土坑、ピット出土遺物実測図（S=1/4）

3．ピット

調査区中央部東寄りを中心にピットを確認した。そのうち、遺物が出土したピットは9基存在し、時代も中世が中心である。図化するに至ったものは少ない。以下では、図化できた出土遺物について記す。

出土遺物（第19図）

8はP5から出土した土師器の皿である。底部は糸切り後板押しが施されている。

9はP8から出土した土師器の皿である。底部は糸切りが施されている。

第５章　まとめ

今回の調査で検出した遺跡に対して評価をするにあたり、まず、各遺構の時期的変遷についてまとめたい。大保西小路遺跡は、これまで５次の調査が行われてきたが、その成果の多くは今回の調査区同様に中世に相当する時期であり、今回発見した遺構も多くは同様の時期に相当する。また、調査区の８割以上を溝が占めており、これらの溝の性格付けも必要であるので、その見当も行うこととする。

１．大保西小路遺跡６の遺構の時期とその変遷について

今回の調査で検出した遺構のうち、遺構の切り合い関係や出土遺物により時期が明確なものは下記のとおりである。なお、今回の調査では、遺構の切り合い関係のみにより時期を特定したものは見当たらなかった。

12世紀中頃～後半　　：９号土坑
13世紀中頃～14世紀　　：５号溝、８号溝、８号土坑
13世紀中頃～15世紀　　：１号溝、３号溝、５号土坑
19世紀末～　　：２号溝、４号溝

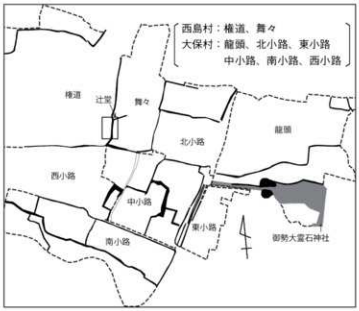
次に、今回の調査区の遺構変遷について 12 世紀以降を対象に時代順に追う。まず、12 世紀中頃～後半より深さ１ｍを超える大型土坑が掘り込まれるようになり、この状況は 15 世紀まで続く。13 世紀中頃には、８号・９号土坑は埋まり、１号・３号・５号溝が機能し始める。これらは、少なくとも 15 世紀に至るまで継続して使用されていったことが出土遺物より想定される。19 世紀末以降になると、３号溝と５号溝の間に４号溝を掘削する。３号溝の D―D′ ベルト土層以南では、必ず遺構検出面で地山を掘り返したような土を確認していることから、４号溝を掘削した際に掘り出した土を３号溝に投げ入れた可能性が想定される。よって、３号溝から出土する遺物の多くは 13 世紀中頃～ 15 世紀に相当するものの、19 世紀末以降に４号溝を掘削するまで使用していた可能性も考えられよう。

２．大保西小路遺跡６で検出された溝について

現地で発掘調査を実施していた際、小郡市郷土史研究会の方より、「調査地の南側は江戸時代頃の「三沢村」と「大保村」の境であり、かつては大溝が東西方向に走っていた」こと、また、「江戸時代頃の村境である東西に伸びる大溝から小字「舞々」と「権道」の境にそって溝が地籍図で見受けられるので、現在発掘調査で検出している溝に相当する可能性があるのではないか」というご教授をいただいた。現地調査を行っている際から、４号溝の調査区南側で見られるカーブがご指摘いただいた地点の溝の形態と類似していることから可能性を想定していたが、図面整理を行う中で、19 世紀末以降に比定できると考えられる４号溝が、ご指摘いただいた小字境の溝と一致した。よって、４号溝は小字「舞々」と「権道」の境溝であることがわかった。また、４号溝の歴史的性格と地点が分かったことから、同じく 19 世紀末以降に比定できる２号溝は小字境から東側に少し伸びている溝であると推定できた。

では、４号溝に切られ、且つ、併行して南北に伸びる 13 世紀中頃～ 15 世紀に比定できる３号・５号溝の歴史的性格が問題となってくる。まず、小字名に着目したい。というのも、地名はなかなか変化しないものであるからだ。本調査地点周辺の小字名は第 20 図の記載のとおりである。小郡市史によれば、「舞々」は神社に奉納する舞などの神事が行われた場所を示し、「北小路・西小路・東小路・中小路・南小路」は、『延喜式』の神名帳に記される式内社である御勢大霊石神社の西側に広がる地域で、小路という文字が小道・巷の意味を指すことから、平安時代京都からきた大宮司家の街づくりによるものと推測されている。実際、昭和 27 年の地籍図を確認しても、溝の区割りから小字「中小路」付近には居館が営まれていた可能性が推定できる。以上より、第 20 図に示した小字名は、平安時代より続いている可能性が想定できる。すると、19 世紀末以降の小字境である４号溝に切られ併行する３号・５号溝は、４号溝と同様に小字境として機能していた可能性がある。このことは、３号溝検出遺構面より下側に約 10 ～ 35cm にわたって地山を掘り返したような土が堆積していたことから、４号溝を掘削する際に出た土で３号溝を埋めたと想定できることからも裏付けられる。

本調査地の北隣には現在も辻堂がある。辻堂は道路辻に立てられた仏堂で、石造物が祀られている。辻堂が建てられる立地の多くは、人々が集まりやすい場所や、集落の境付近に築かれている。実際、この辻堂は、江戸時代の西島村と力武村と大保村が接する境付近に立地していることからも、交通の要所であったことが窺える。３号溝が使用されていた 13 世紀中頃～ 15 世紀は、大保区内でも本遺跡だけでなく大保龍頭遺跡・大保横枕遺跡・大保権道遺跡・大保毎々遺跡と広範囲にわたって集落が築かれていたことがこれまでの発掘調査成果よりわかっていることから、多くの人々が行きかう地域であったことだろう。



第 20 図　調査地周辺の小字と溝

出土遺物観察表

1. 土器

法量＝口：口径、高：器高、底：底径、頂：頂部　器種＝土：土師器、須質：須恵質土器、青：青磁、陶：陶器、瓦質：瓦質土器

挿図番号	図版番号	出土遺構	器種	法量cm（復元値）	色調	胎土	焼成	調整	残存率	備考
6-1		1号溝	土・皿	口：(6.8) 底：(4.6) 高：2.0	外：にぶい黄(2.5Y6/3) 内：にぶい黄(2.5Y6/3)	1mm以下の微砂を多く含む	良	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	口～底約1/2	底部は糸切り。
6-2		1号溝	土・皿	底：6.4 高：1.7	外：にぶい黄橙(10YR6/4) 内：にぶい黄橙(10YR6/4)	1mm以下の微砂を多く含む	良	外：回転ナデ 内：回転ナデ	胴～底約1/1	底部は糸切り。
6-3		1号溝	土・皿	底：(8.7) 高：1.1	外：にぶい黄橙(10YR7/4) 内：にぶい黄橙(10YR7/4)	1mm以下の微砂を やや多く含む	良	外：回転ナデ 内：回転ナデ	胴～底約1/3	底部は糸切り。
6-4		1号溝	土・鍋	高：7.5	外：褐(10YR4/4) 内：にぶい黄褐(10YR5/3)	4mm以下の砂粒を やや多く含む	良	外：ヨコナデ、ハケメ後ナデ 内：ハケメ	口～胴上小片	内外面にコゲ付着。
6-5		1号溝	土・鍋	高：6.1	外：にぶい黄橙(10YR6/4) 内：にぶい黄橙(10YR6/4)	3mm以下の砂粒を 多く含む	良	外：ヨコナデ、磨滅 内：ハケメ	口～胴上小片	
6-6		1号溝	土・鍋	高：7.3	外：にぶい黄(2.5Y6/3) 内：にぶい黄(2.5Y6/3)	4.5mm以下の砂粒 をやや多く含む	良	外：ヨコナデ、ハケメ後ナデ 内：ハケメ	口～胴上小片	
6-7		1号溝	土・鉢	高：5.15	外：にぶい褐(7.5YR5/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	4mm以下の砂粒を やや多く含む	良	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ハケメ	口～胴上小片	内面にコゲ付着。
6-8		1号溝	須質・すり鉢	高：5.2	外：灰(5Y4/1) 内：灰(5Y4/1)	1mm以下の微砂を やや多く含む	良	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ハケメ	口～胴上小片	内面にすり目あり。
6-9		1号溝	青・碗	高：2.7	外：明オリーブ灰(2.5GY7/1) 内：緑灰(5G6/1)	1mm以下の微砂を わずかに含む	良好	外：釉薬 内：釉薬	口～胴上小片	外面に蓮弁文。
6-10	2-14	1号溝	丸瓦	—	外：灰黄色(2.5Y6/2)	1mm以下の微砂を 少し含む	良	外：工具痕 内：工具痕	小片	
6-11	2-5	2号溝	磁・瓶底	底：(3.7) 高：2.5	外：灰白(5GY8/1) 内：灰白(2.5GY8/1)	1mm以下の微砂を 少し多く含む	良好	外：釉薬 内：釉薬	胴～底約3/4	内面の見込みに蛇の目あり。
6-12	2-4	2号溝	磁・碗	口：(9.0) 底：3.7 高：5.3	外：灰白(5Y7/1) 内：灰白(5Y7/1)	1mm以下の微砂を 少し含む	良好	外：釉薬 内：釉薬	口～胴約1/2 底完形	
6-13	2-6	2号溝	磁・碗	口：(11.0) 底：(3.8) 高：4.65	外：灰白(N8/) 内：灰白(N8/)	1mm以下の微砂を わずかに含む	良好	外：釉薬 内：釉薬	口～底約1/2	内面の見込みに蛇の目あり。
6-14	2-3	2号溝	磁・碗	口：(10.6) 底：3.9 高：5.25	外：灰白(10Y8/1) 内：灰白(5YR8/1)	1mm以下の微砂を 少し含む	良好	外：釉薬 内：釉薬	口～胴約1/5 底完形	
6-15	2-2	2号溝	磁・瓶	底：(8.0) 高：7.45	外：灰白(10Y8/1) 内：灰白(7.5Y8/1)	1mm以下の微砂を 少し含む	良好	外：釉薬 内：へラ削り、回転ナデ	胴約1/2 底完形	
6-16	2-1	2号溝	陶・灯明皿	底：(3.6) 高：2.1	外：赤褐(10YR5/3) 内：灰赤(10YR4/2)	1mm以下の微砂を やや多く含む	良好	外：回転ナデ 内：釉薬	口～底約1/2	底部は糸切り。
6-17	2-18	2号溝	丸瓦	—	外：灰色(5Y4/1)	1mm以下の微砂を やや多く含む	良	外：ナデ 内：ナデ	小片	頂部に穿孔あり。
6-18	2-16	2号溝	軒平瓦	—	外：黒褐色(2.5Y3/1)	1mm以下の微砂を 少し含む	良	外：ナデ 内：ナデ	小片	瓦頭文様あり。
11-1		3号溝	土・皿	口：(13.8) 底：(9.0) 高：2.65	外：にぶい黄橙(10YR7/4) 内：にぶい黄橙(10YR7/4)	1mm以下の微砂を やや多く含む	良	外：回転ナデ 内：回転ナデ	口～底約1/4	底部は糸切り。
11-2		3号溝	土・皿	口：(11.8) 底：(6.4) 高：3.0	外：橙(7.5YR7/6) 内：橙(7.5YR7/6)	1mm以下の微砂を 多く含む	良	外：回転ナデ 内：回転ナデ	口～底約1/4	底部は糸切り。
11-3		3号溝	土・皿	口：(12.9) 高：2.4	外：にぶい橙(7.5YR7/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	1mm以下の微砂を 多く含む	良	外：回転ナデ 内：回転ナデ	口～胴約1/4	
11-4		3号溝	土・皿	底：6.8 高：2.2	外：橙(10YR6/6) 内：橙(5YR7/6)	1mm以下の微砂を やや多く含む	良	外：回転ナデ 内：回転ナデ	胴～底約1/3	底部は糸切り。
11-5		3号溝	土・皿	底：6.0 高：2.35	外：にぶい黄橙(10YR6/4) 内：にぶい黄橙(10YR6/3)	1mm以下の微砂を 多く含む	良	外：回転ナデ 内：回転ナデ	胴約1/3 底約2/3	底部は糸切り。
11-6		3号溝	土・皿	底：(7.6) 高：1.45	外：にぶい黄橙(10YR7/4) 内：にぶい黄橙(10YR6/4)	1mm以下の微砂を 多く含む	良	外：回転ナデ 内：回転ナデ	胴～底約1/2	底部は糸切り。
11-7		3号溝	土・皿	口：(5.6) 高：1.8	外：灰黄褐(10YR6/2) 内：にぶい黄橙(10YR5/3)	1mm以下の微砂を 多く含む	良	外：回転ナデ 内：回転ナデ	胴～底約1/2	底部は糸切り。
11-8		3号溝	土・皿	底：(6.8) 高：1.55	外：にぶい黄橙(10YR6/3) 内：にぶい黄橙(10YR6/3)	1mm以下の微砂を 多く含む	良	外：回転ナデ 内：回転ナデ	胴約1/3 底約2/3	底部は糸切り。
11-9		3号溝	土・皿	底：(8.4) 高：1.05	外：橙(7.5YR7/6) 内：橙(7.5YR7/6)	1mm以下の微砂を 多く含む	良	外：回転ナデ 内：回転ナデ	胴～底約1/3	底部は糸切り。
11-10		3号溝	土・皿	底：4.8 高：1.4	外：にぶい黄橙(10YR7/4) 内：にぶい黄橙(10YR7/4)	1mm以下の微砂を 多く含む	良	外：回転ナデ 内：磨滅	胴約1/5 底約1/1	底部は糸切り。
11-11		3号溝	土・皿	底：5.2 高：2.05	外：にぶい橙(7.5YR7/4) 内：にぶい黄橙(10YR7/4)	1mm以下の微砂を 多く含む	良	外：回転ナデ 内：回転ナデ	胴約1/4 底約1/1	底部は糸切り。
11-12		3号溝	土・皿	底：4.6 高：1.5	外：にぶい黄橙(10YR6/3) 内：にぶい黄橙(10YR6/4)	1mm以下の微砂を かなり多く含む	良	外：回転ナデ 内：回転ナデ	胴～底約2/3	底部は糸切り。
11-13		3号溝	土・皿	口：(9.0) 底：(7.0) 高：1.8	外：にぶい黄橙(10YR6/3) 内：にぶい黄橙(10YR5/3)	1mm以下の微砂を 少し含む	良	外：回転ナデ 内：回転ナデ	口～底約1/4	底部は糸切り。
11-14		3号溝	土・皿	底：4.7 高：1.1	外：にぶい黄橙(10YR7/4) 内：浅黄橙(7.5YR8/4)	1mm以下の微砂を やや多く含む	良	外：回転ナデ 内：回転ナデ	胴～底約1/1	底部はヘラ切り後板ナデ。
11-15		3号溝	土・皿	口：(7.6) 底：(5.8) 高：1.8	外：橙(7.5YR6/6) 内：橙(7.5YR6/6)	1mm以下の微砂を 多く含む	良	外：回転ナデ 内：回転ナデ	口～底約1/4	底部は糸切り。
11-16		3号溝	土・皿	口：(7.6) 底：(5.8) 高：1.4	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：橙(7.5YR7/6)	1mm以下の微砂を 多く含む	良	外：回転ナデ 内：回転ナデ	口～底約1/4	底部は糸切り。
11-17		3号溝	土・皿	口：(8.0) 底：(6.0) 高：1.8	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)	1mm以下の微砂を 多く含む	良	外：回転ナデ 内：回転ナデ	口～底約1/4	底部は糸切り。
11-18		3号溝	土・皿	底：4.8 高：1.15	外：にぶい黄橙(10YR7/4) 内：にぶい黄橙(10YR7/4)	1mm以下の微砂を 多く含む	良	外：回転ナデ 内：回転ナデ	胴～底約1/2	底部は糸切り。

掲図番号	図版番号	出土遺構	器種	法量cm（復元値）	色調	胎土	焼成	調整	残存率	備考
11-19		3号溝	土・皿	口：(7.5) 底：(3.2) 高：1.5	外：にぶい黄橙（10YR6/3） 内：灰黄褐（10YR4/2）	1mm以下の微砂を かなり多く含む	良	外：回転ナデ 内：回転ナデ	口～底約1/4	内外面にスス付着。 底部は糸切り。
11-20		3号溝	土・壺	底：(15.2) 高：1.8	外：にぶい黄（2.5Y6/3） 内：にぶい黄褐（10YR5/4）	1mm以下の微砂を 少し含む	劣	外：回転工具ナデ、ヨコナデ 内：ナデ	頸～底約1/6	内面にコゲ付着。
11-21		3号溝	瓦器・甕	底：(9.6) 高：3.4	外：灰白（2.5Y7/1） 内：灰白（2.5Y7/1）	1mm以下の微砂を やや多く含む	良好	外：回転ナデ 内：ナデ	胴下～底約1/4	
11-22		3号溝	土・すり鉢	底：(11.8) 高：2.6	外：にぶい黄橙（10YR7/4） 内：灰黄（2.5Y6/2）	1mm以下の微砂を 少し含む	良	外：撫減、ハケメ 内：撫減、ハケメ	胴下～底約1/3	内面に4本1単位のすり目あり。
11-23		3号溝	土・すり鉢	底：(15.4) 高：4.5	外：灰黄（2.5Y7/2） 内：にぶい黄橙（10YR7/4）	1mm以下の微砂を 少し含む	良	外：撫減、ハケメ後ナデ、ナデ 内：撫減	胴下～底約1/6	内面に5本1単位のすり目あり。
11-24		3号溝	土・すり鉢	口：(23.0) 高：6.0	外：にぶい黄橙（10YR7/3） 内：にぶい黄橙（10YR7/4）	2mm以下の砂粒を やや多く含む	良	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ハケメ	口～胴約1/5	内面にすり目あり。
11-25		3号溝	土・すり鉢	口：(19.2) 高：8.2	外：黄灰（2.5Y6/1） 内：にぶい黄橙（10YR6/3）	1mm以下の微砂を 多く含む	良	外：ハケメ後ナデ 内：ハケメ	口～胴約1/6	内面に4本1単位のすり目あり。
11-26		3号溝	土・鉢	口：(29.6) 高：7.7	外：にぶい橙（7.5YR6/4） 内：にぶい黄褐（10YR5/3）	1mm以下の微砂を 多く含む	良	外：ヨコナデ、ハケメ後ナデ 内：ハケメ、ナデ	口～胴下約1/4	外面に黒斑あり。 内面にスス付着。
11-27		3号溝	土・鉢	口：(29.6) 高：8.55	外：灰黄褐（10YR5/2） 内：にぶい黄橙（10YR6/3）	1mm以下の微砂を 少し含む	良	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ハケメ後ナデ	口～胴約1/8	外面にコゲ付着。 内面にスス付着。
11-28		3号溝	土・鉢	口：(25.8) 高：6.25	外：にぶい橙（7.5YR6/4） 内：にぶい橙（7.5YR6/4）	3mm以下の砂粒を やや多く含む	良	外：ヨコナデ、押さえ、ナデ 内：ヨコナデ、ハケメ	口～胴上約1/8	外面にスス付着。
11-29		3号溝	土・鉢	口：(30.2) 高：5.9	外：橙（7.5YR6/6） 内：にぶい橙（7.5YR6/4）	2mm以下の砂粒を やや多く含む	良	外：ヨコナデ、ハケメ後ナデ 内：ヨコナデ、ハケメ	口～胴上約1/8	外面にスス付着。
12-1		3号溝	須賀・すり鉢	高：12.85	外：にぶい黄（2.5Y6/3） 内：灰黄（2.5Y7/2）	1mm以下の微砂を やや多く含む	良	外：ヨコナデ、ナデ 内：ハケメ後ナデ	口～胴小片	胴部に穿孔（外→内）2か所あり。 内面に4本1単位のすり目あり。
12-2	2-12	3号溝	土・すり鉢	口：(28.6) 高：9.7	外：にぶい黄橙（10YR7/3） 内：にぶい黄橙（10YR7/3）	2mm以下の砂粒を やや多く含む	劣	外：ハケメ後ナデ消し 内：ハケメ後ナデ、ヨコナデ	口～胴約1/6	外面に被熱痕あり。 内面に4本1単位のすり目あり。
12-3		3号溝	須賀・すり鉢	口：(16.4) 高：8.6	外：黄灰（2.5Y5/1） 内：黄灰（2.5Y5/1）	1mm以下の微砂を やや多く含む	良	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	口～胴下約1/5	内面に4本1単位のすり目あり。
12-4	2-7	3号溝	須賀・すり鉢	口：(29.6) 底：(13.4) 高：9.4	外：灰（N6/1） 内：灰白（2.5Y7/1）	1mm以下の微砂を 少し含む	良	外：ヨコナデ、ハケメ、撫減 内：ヨコナデ、ハケメ、撫減	口～底約1/4	内面に4本1単位のすり目あり。
12-5		3号溝	須恵・鉢	口：(29.3) 高：8.8	外：黄灰（2.5Y5/1） 内：淡黄（2.5Y8/3）	3mm以下の砂粒を やや多く含む	良	外：ヨコナデ、ハケメ、ナデ 内：ヨコナデ、ハケメ、ハケメ後ナデ	口～胴約1/6	
12-6		3号溝	土・鍋	口：25.0 高：8.6	外：黒褐（10YR2/1） 内：褐（7.5YR4/4）	2mm以下の砂粒を やや多く含む	良	外：ヨコナデ、撫減 内：ヨコナデ、ハケメ	口～胴上約1/2	外面にコゲ付着。
12-7	2-9	3号溝	土・鍋	口：(30.6) 高：10.25	外：オリーブ黒（5Y3/1） 内：黒（2.5Y2/1）	1mm以下の微砂を 多く含む	良	外：ヨコナデ、撫減 内：ヨコナデ、ハケメ後ナデ	口～胴下約1/5	外面にコゲ付着。 内面にスス付着。
12-8	2-8	3号溝	土・鍋	口：(42.5) 高：3.6	外：橙（7.5YR6/6） 内：にぶい橙（7.5YR6/4）	1mm以下の微砂を やや多く含む	良	外：ヨコナデ、ハケメ後ナデ 内：ヨコナデ、ハケメ	口～胴上約1/6	外面にコゲ付着。
12-9	2-10	3号溝	土・鍋	口：(42.8) 高：8.4	外：にぶい黄橙（10YR6/3） 内：にぶい黄橙（10YR6/4）	1mm以下の微砂を やや多く含む	良	外：ヨコナデ、ハケメ後ナデ 内：ハケメ	口～胴約1/8	外面にスス付着。
12-10	2-11	3号溝	土・鍋	口：(45.2) 高：9.3	外：にぶい橙（7.5YR6/3） 内：にぶい橙（7.5YR6/4）	1mm以下の微砂を 多く含む	良	外：ヨコナデ、押さえ、ハケメ後ナデ 内：ヨコナデ、ハケメ	口～胴約1/8	外面にコゲ付着。
13-1		3号溝	土・湯釜	高：6.0	外：にぶい橙（7.5YR6/4） 内：灰黄褐（10YR5/2）	1mm以下の微砂を やや多く含む	劣	外：ナデ、ヨコナデ 内：ナデ	胴約1/8	外面位コゲ・スス付着。
13-2		3号溝	土・湯釜	高：6.3	外：褐灰（10YR5/1） 内：灰黄（2.5Y6/2）	1mm以下の微砂を やや多く含む	良	外：ナデ、ヨコナデ 内：工具ナデ	胴約1/8	外面にスス・コゲ付着。
13-3		3号溝	土・湯釜	高：9.5	外：褐灰（10YR5/1） 内：褐灰（10YR4/1）	1mm以下の微砂を 多く含む	劣	外：ナデ、ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、押さえ	胴約1/8	外面にコゲ付着。
13-4		3号溝	瓦質・火鉢	高：9.5	外：にぶい黄橙（10YR6/3） 内：淡黄（2.5Y7/3）	2mm以下の砂粒を 多く含む	良	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ハケメ後ナデ消し、撫減	口～胴小片	外面に印あり。 内外面にスス付着。
13-5		3号溝	瓦質・火鉢	高：12.1	外：灰黄（2.5Y6/2） 内：黄灰（2.5Y4/1）	1mm以下の微砂を 少し含む	劣	外：ナデ 内：ハケメ後ナデ消し、ナデ	胴約1/4	外面に印あり。
13-6		3号溝	陶・甕	口：(12.8) 高：5.0	外：にぶい褐（7.5YR5/3） 内：灰黄褐（10YR5/2）	1mm以下の微砂を やや多く含む	良	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、絞り、ナデ	口～胴上約1/8	
13-7		3号溝	青・皿	口：(12.4) 高：2.4	外：オリーブ灰（10YR6/2） 内：オリーブ灰（10YR6/2）	1mm以下の微砂を 少し含む	良好	外：釉薬 内：釉薬	口～胴約1/4	
13-8		3号溝	青・皿	底：(7.2) 高：1.8	外：灰白（2.5GY8/1） 内：明オリーブ灰（2.5GY7/1）	1mm以下の微砂を 少し含む	良好	外：釉薬 内：釉薬	胴～底約1/4	
13-9		3号溝	青・碗	高台：6.1 高：1.7	外：オリーブ灰（2.5GY5/1） 内：オリーブ灰（2.5GY5/1）	1mm以下の微砂を わずかに含む	良好	外：釉薬 内：釉薬	高台約1/1	内面見込みに草花文。
13-10		3号溝	青・碗	高台：4.6 高：4.5	外：オリーブ灰（10Y5/2） 内：オリーブ灰（10Y5/2）	1mm以下の微砂を わずかに含む	良好	外：釉薬 内：釉薬	胴～高台約1/2	内面見込みに草花文。 外面に蓮弁文。
14-1	2-15	3号溝	平瓦	—	外：黄灰色（2.5Y4/1）	1mm以下の微砂を 少し含む	良	外：工具痕 内：工具痕	小片	
16-1		4号溝	磁・皿	口：(18.1) 高：3.6	外：灰オリーブ（10YR6/4） 内：暗オリーブ（10YR7/4）	1mm以下の微砂を 少し含む	良好	外：釉薬 内：釉薬	口～胴約1/6	
16-2		4号溝	磁・碗	高台：(5.25) 高：1.35	外：明オリーブ灰（2.5GY7/1） 内：明緑灰（5G7/1）	1mm以下の微砂を わずかに含む	良好	外：釉薬 内：釉薬	胴下～高台約1/3	内面見込みに蛇の目あり。
16-3		4号溝	磁・碗	高台：(3.8) 高：1.9	外：明緑灰（7.5GY8/1） 内：灰白（5GY8/1）	1mm以下の微砂を 少し含む	良好	外：釉薬 内：釉薬	胴～高台約1/4	
16-4		4号溝	磁・碗	高台：(3.8) 高：2.8	外：灰白（N8/） 内：灰白（N8/）	1mm以下の微砂を わずかに含む	良好	外：釉薬 内：釉薬	胴下～高台約1/4	
16-5		5号溝	土・皿	底：(8.1) 高：1.1	外：にぶい黄橙（10YR6/3） 内：にぶい黄橙（10YR6/4）	1mm以下の微砂を 多く含む	良	外：回転ナデ 内：回転ナデ	胴～底約1/4	底部は糸切り。

挿図番号	図版番号	出土遺構	器種	法量cm（復元値）	色調	胎土	焼成	調整	残存率	備考
16-6		5号溝	土・皿	底:(8.0) 高:1.8	外:にぶい黄橙(10YR7/3) 内:にぶい黄橙(10YR7/4)	1mm以下の微砂をやや多く含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	胴～底約1/4	底部は糸切り。
16-7		5号溝	青・碗	高:2.6	外:オリーブ灰(10Y5/2) 内:オリーブ灰(10Y5/2)	1mm以下の微砂を少し含む	良好	外:釉薬 内:釉薬	口～胴上小片	外面に廉弁文あり。
16-8		8号溝	土・皿	底:(8.6) 高:1.15	外:にぶい黄橙(10YR7/4) 内:にぶい黄橙(10YR7/4)	1mm以下の微砂をやや多く含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	胴～底約1/6	底部は糸切り。
16-9		8号溝	土・皿	口:(5.6) 底:(4.2) 高:1.1	外:にぶい黄橙(10YR7/4) 内:にぶい黄橙(10YR7/3)	1mm以下の微砂を少し含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	口～底約1/4	底部は糸切り。
16-10		8号溝	土・鍋	高:4.0	外:灰黄褐(10YR5/2) 内:灰黄褐(10YR6/2)	3mm以下の砂粒をやや多く含む	良	外:ナデ 内:ハケメ	口～胴上小片	内面にスス付着。
16-11		2号土坑	羽・壺	底:(16.8) 高:2.9	外:にぶい黄橙(10YR7/3) 内:にぶい黄橙(10YR7/3)	1mm以下の微砂をやや多く含む	良	外:ハケメ 内:撫減	胴下～底約1/3	
16-12	2-17	2号土坑	丸瓦	—	外:灰色(5Y4/1)	1mm以下の微砂をやや多く含む	良	外:ナデ 内:ナデ	小片	頂部に穿孔あり。
16-13	2-20	5号土坑	土・皿	口:(14.0) 底:7.3 高:3.3	外:にぶい黄橙(10YR6/4) 内:にぶい黄橙(10YR6/3)	1mm以下の微砂を多く含む	—	外:回転ナデ 内:回転ナデ	口～胴約1/4 底完形	底部は糸切り後ナデ。 外面にタール状の物質付着。 内面にススス付着。
16-14		5号土坑	土・皿	口:(14.3) 底:(9.4) 高:2.15	外:浅黄(2.5Y7/3) 内:にぶい黄橙(10YR7/3)	1mm以下の微砂をやや多く含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	口～底約1/4	底部は糸切り。
16-15		5号土坑	土・皿	口:(8.8) 底:(6.8) 高:1.3	外:にぶい黄橙(10YR7/4) 内:にぶい橙(7.5YR6/4)	1mm以下の微砂を少し含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	口～底約1/4	底部は糸切り後板押ナデ。
16-16		5号土坑	須賀・すり鉢	底:(11.8) 高:3.75	外:にぶい黄橙(10YR6/4) 内:灰白(2.5Y7/1)	2mm以下の砂粒をやや多く含む	劣	外:ハケメ後ナデ 内:ナデ	胴下～底約1/3	底部は板ナデ。 外面にコゲ付着。 内面に4本1単位のすり目あり。
16-17		5号土坑	土・鍋	口:(26.5) 高:13.35	外:にぶい褐(7.5YR5/3) 内:橙(7.5YR6/6)	1mm以下の微砂をやや多く含む	良	外:ヨコナデ、ハケメ後ナデ 内:ヨコナデ、ハケメ、ハケメ後ナデ	口～胴上約1/6	外面にコゲ付着。
16-18		3号土坑	土・鍋	口:(41.9) 高:7.75	外:橙(7.5YR6/6) 内:橙(7.5YR6/6)	1mm以下の微砂をやや多く含む	良	外:ヨコナデ、ハケメ 内:ヨコナデ、ハケメ	口～胴上約1/6	内外面にコゲ付着。
19-1		8号土坑	土・皿	底:(9.4) 高:1.3	外:にぶい橙(7.5YR7/4) 内:にぶい橙(7.5YR7/4)	1mm以下の微砂を少し含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	口～底約1/4	底部は糸切り。
19-2		8号土坑	瓦質・火鉢	高:8.9	外:にぶい黄橙(10YR6/4) 内:褐灰(10YR4/1)	1mm以下の砂粒をやや多く含む	良	外:ヨコナデ、ナデ 内:ヨコナデ、ハケメ後ナデ	口～胴上小片	外面に印あり。 内外縁にススス付着。
19-3		8号土坑	須賀・すり鉢	高:11.5	外:灰(5Y5/1) 内:灰(7.5Y5/1)	1mm以下の微砂を少し含む	良好	外:ヨコナデ、ハケメ、ナデ 内:ヨコナデ、ハケメ	口～胴小片	内面に4本1単位のすり目あり。 内面にススス付着。
19-4		9号土坑	土・皿	口:(11.6) 底:(10.8) 高:1.1	外:にぶい黄橙(10YR7/4) 内:橙(7.5YR6/6)	1mm以下の微砂を少し含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	口～底約1/6	底部は糸切り。
19-5		9号土坑	土・皿	口:(9.8) 底:(8.1) 高:1.05	外:橙(7.5YR7/6) 内:橙(7.5YR6/6)	1mm以下の微砂をやや多く含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	口～底約1/4	底部は糸切り後板ナデ。
19-6		9号土坑	土・皿	口:(8.6) 底:(7.2) 高:1.3	外:にぶい黄橙(10YR7/3) 内:にぶい黄橙(10YR7/4)	1mm以下の微砂をやや多く含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	口～底約1/6	底部は糸切り後板押し。
19-7	2-19	9号土坑	青・碗	底:5.9 高:3.7	外:オリーブ灰(10Y5/2) 内:オリーブ灰(10Y5/2)	1mm以下の微砂を少し含む	良好	外:釉薬 内:釉薬	胴～底約1/4 高台約3/4	内面には蛇の目あり。
19-8		P5	土・皿	口:(14.8) 底:(10.8) 高:2.7	外:にぶい黄橙(10YR7/3) 内:にぶい黄橙(10YR7/3)	1mm以下の微砂をやや多く含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	口～底約1/2	底部は糸切り後板押し。
19-9		P8	土・皿	底:(7.6) 高:1.25	外:にぶい黄橙(10YR6/4) 内:にぶい黄橙(10YR7/4)	1mm以下の微砂を多く含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	胴～底約1/4	底部は糸切り。

2. 石器

挿図番号	図版番号	出土遺構	種類	計測値				備考
				長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	
6-19		2号溝上層	温じゃく	3.7	1.25	2.4	66.0	表面にコゲ付着。
14-2		3号溝下層	砥石	5.2	4.8	2.3	86.5	砥面4面
14-3		3号溝	砥石	6.60	7	4.1	220.0	砥面2面
14-4		3号溝	砥石	6.95	4.55	1.35	46.8	砥面1面
14-5	2-13	3号溝	石臼	径:14.8		7.1	1270	
14-6		3号溝上層	剥片	2.9	2.3	0.4	3.2	石材:黒曜石
14-7		3号溝	石核	5.35	2.3	1.4	17.68	石材:黒曜石

図版 1

①調査区全景（真上から）

②１号溝ベルト土層断面
（東側から）

③１号溝完掘
（西側から）

④２号溝ベルト土層断面
（東側から）

⑤３号・８号溝完掘
（西側から）

⑥２号溝完掘
（東側から）

⑦４号溝完掘
（南側から）

⑧４号溝完掘
（北側から）

⑨７号溝完掘
（南側から）

⑩５号土坑完掘
（北側から）

⑪４号溝ベルト土層断面
（北側から）

⑫５号溝ベルト土層断面
（北側から）

⑬７号溝北壁土層断面
（南側から）

⑭５号土坑土器出土状況
（南側から）

⑮５号土坑西壁土層断面
（東側から）

⑯６号土坑完掘
（北側から）

⑰８号土坑完掘
（西側から）

⑱９号土坑整地層検出状況
（東側から）

⑲調査区遠景（南側から）

出土遺物

報告書抄録

ふりがな	おおほにししょうじいせき
書　　名	大保西小路遺跡６
副 書 名	福岡県小郡市大保所在遺跡の調査報告
巻　　次	
シリーズ名	小郡市文化財調査報告書
シリーズ番号	第３０７集
編著者名	西江　幸子
編集機関	小郡市教育委員会
所 在 地	〒838－0198　福岡県小郡市小郡255－1　Tel. 0942－72－2111
発行年月日	平成28年3月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
大保西小路遺跡６（おおほにししょうじいせき）	福岡県（ふくおかけん）小郡市（おごおりし）大保（おほ）	40216		33°24′46″	130°33′35″	2015.1.8～2015.3.3	264㎡	道路新設工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大保西小路遺跡６	集落	中世 近現代	溝 土坑 ピット	土師器 須恵質土器 青磁 磁器 陶器	

要　　約	今回の調査では、調査区全体の８割以上の広さで溝を数条確認した。これらの溝を出土遺物や遺構の切り合い関係等により検討した結果、戦後すぐに作成された地籍図の小字境の溝と一致する溝であることがわかった。また、周辺地域における調査結果や歴史的背景等を踏まえ考察した結果、地籍図に記された溝は中世にも存在していた可能性が高いことがわかった。

大保西小路遺跡６

小郡市埋蔵文化財調査報告書第307集

平成28年３月31日

編集　小郡市教育委員会
　　福岡県小郡市小郡255－1
発行　片山印刷有限会社
　　福岡県小郡市祇園１丁目8-15